

クラス	Q301	担当教員	伊藤 修毅
テーマ	障害のある子ども・青年の教育・福祉・労働		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『イラスト版発達に遅れのある子どもと学ぶ性のはなし—子どもとマスターする性のしくみ・いのちの大切さ』(編著)合同出版 2013、『障害者の就労と福祉的支援—日本における保護雇用のあり方と可能性』(単著)かもがわ出版 2013、『International Practice in Special Education - Debates and Challenges』(共著)Gallaudet University Press 2011 ほか</p> <p>【論文】「選抜式知的障害特別支援学校高等部の現状」(障害者問題研究 42(1),2014)「障害のある“おとな”の性と生」(季刊セクシュアリティNo.60 2013)、「全国調査に見る就労継続支援事業(A型)の現状と課題～賃金とその決定要因の分析を中心に～」(職業リハビリテーション 25(1) 2011)ほか</p> <p>【研究課題】「知的障害者継続教育の教育課程及びニーズに関する研究」「知的障害児・者用性教育プログラムの開発」</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：障害児（特別ニーズ）教育 思春期・青年期 性（セクシュアリティ）教育 進路保障			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>このゼミでは、障害（様々な特別なニーズや困難全般を含む）のある人々の学齢期から青年期までのライフステージに着目し、その課題を「社会問題」として検討していくことを目的とする。障害等にともなう困難は、その人の生活する「社会」との関係によって大きく変化する。ゼミ生には、その「社会」に目を向け、その「社会」を構成する一市民としての課題や、ゼミ生が目指す専門職としての役割を考えることのできる力を養ってもらいたいと考えている。特別支援学校の教員になることを目指している学生が主たる対象となるが、この目的に沿った研究に対し、「やる気」があれば進路希望は問わない。</p> <p>研究テーマとしては、「特別支援教育の内包する諸課題」「障害児者の性（セクシュアリティ）教育」「知的障害青年の修業年限延長の課題」「障害児者の青年期とキャリア教育」「触法障害者の支援をめぐる課題」等、様々なものが想定される。現時点でとりあえず何らかの問題意識をもっていることが望ましいが、3年前期のゼミ活動を通して、その問題意識を広げたり、深めたりすることに努め、徐々に、卒業研究のテーマとして具体化していってもらえればよいと考える。</p> <p>したがって3年次前期のゼミの主たる目標は「広げる」である。興味・関心のあるテーマに関わるたくさんの資料や文献を整理し、共有し、「どこにどのような問題が所在するのか」を検討していく。3年次夏休み中には、例年、学習を中心としたゼミ合宿を行っているが、これについてもゼミ生が主体的に計画を進め、十分な事前・事後学習を行うことが求められる。3年次後期に入る頃には、それぞれ、「仮」の卒業研究テーマを決め、個人研究をスタートさせる。以後、4年次にかけて、教職を目指す学生は教育実習や教員採用試験の合間をぬって研究を進めていくことになるので、計画性をもって研究を進められるようにしていきたい。</p> <p>一人ひとりが、それぞれの研究テーマに向かって研究を進めていくことになるが、お互いの研究を話しあって、よりよいものにしていくことがゼミという集団の役割である。発表者は、レジュメやパワーポイントを用いてわかりやすい発表をめざしてもらいたい。同時に、聴く側は、しっかりと仲間の発表を受けとめ、建設的な批判を行い、仲間の研究をよりよいものに発展させていってもらいたい。</p> <p>なお、全国各地で行われている障害児教育の現場の先生方などを対象とする研究会等の中には、学生の参加を歓迎してくれるものが少なくない。ゼミ生には、こういった研究会等を適宜紹介するので、積極的・自主的に参加していただきたい。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>①「「楽」ではないけど「楽しい」ゼミ」を目指しています。必修だから卒業研究をやらされるという気持ちではなく、自分自身の大学4年間の学びの集大成としてポジティブな気持ちで卒業研究に挑んでくれる学生の皆さん、一緒に楽しいゼミを創って、「達成感」の持てる卒業論文を書きましょう！</p> <p>②現3・4年生のゼミ（金曜3・4限）の見学も歓迎します。ご希望の方は、事前に連絡ください！</p>			